



主なリーダーシップ領域：医療機関、理事会、タスクフォース、テクニカルワーキンググループ、国内および国際医療関連団体

20年以上の経験を持つ著名なヘルスケアリーダーであるジャクリン・キトゥル医師は、影響力があり変革をもたらす、目的意識に満ちたリーダーとして際立っており、その影響力はケニア、アフリカ全域、そして世界の医療を形作ってきた。

世界医師会(WMA)会長であるキトゥル医師は、医療機関や保健医療システムの改革、医療の質とアクセスの向上、グローバルで強靱な保健医療システムの構築、医療倫理の強化、医療従事者の福祉向上に向けた取り組みで高い評価を得ている。また、多専門診療所「カレン・サージェリー(Karen Surgery)」において、認可を受けた医師として診療も行っている。

キトゥル医師は、医療経営、グローバルヘルス分野でのアドボカシー、保健医療システム強化、保健医療政策の策定、医療財政、ステークホルダーとの関係など、複数の領域が交差する現場で活動し、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の推進や医師による倫理的な医療実践に大きく貢献してきた。医療施設や組織における強固な保健医療システムとコーポレートガバナンス体制の構築、世界的な医療緊急事態やパンデミックへの効果的な対応においても、優れた実績を重ねている。

主な専門分野：

- ・理事会レベルでのリーダーシップ
- ・コーポレートガバナンス
- ・プライマリ・ヘルスケア
- ・保健医療システム強化
- ・保健医療政策の策定
- ・グローバルヘルス分野でのアドボカシー

これまで、ケニア医師会(KMA)の副会長、全国副議長、そして初の女性会長を務めた。ケニア女性医師会(KMWA)の会計および全国議長、ケニア医療連盟理事、ケニア内科医協会事務局長、ケニア全国蘇生評議会の副議長、ケニア医師・歯科医師評議会(KMPDC)では評議員を務め、ケニアおよび東アフリカ地域における医療教育機関の監査において重要な役割を担ってきた。

ケニア、東アフリカ、さらにはその域外において医療提供の専門性と質の向上に貢献し、医師の福祉向上にも力を尽くしてきた。また、質の高い医療を実現するための国内および国際レベルの政策協議において重要なパートナーとして活躍してきた。ケニア医師会会長在任中には、同会を率いて重要な国家政策立案に関わるとともに、COVID-19パンデミック時には、最前線で働く医療従事者を支援するため80万米ドルの助成金を確保した。さらに、政府からの任命で、国家経済社会評議会の大統領任命メンバー、国民健康保険基金財務委員会委員長、ケニア赤十字社第一副総裁、ケニア消費者保護諮問委員会副委員長などの要職を歴任し、ケニアの医療制度を形作ってきた。こうした変革を促すリーダーシップが高く評価され、ケニア共和国の二人の大統領から、モラン・オブ・ザ・バーニング・スピア勲章(MBS)およびケニア大戦士勲章(OGW)を授与されている。

世界的には、キトゥル氏は世界医師会(WMA)のコミュニケーションおよびアドボカシー委員会のメンバー、そしてTech Care for Allのグローバル・アドバイザリーボードのメンバーとして活動し、デジタルヘルス分野に影響を与えるとともに、医師の医の倫理と専門的自律性の擁護を推進してきた。ストラスモア大学を卒業し、ヘルスケアマネジメント専攻のMBAと、ナイロビ大学における医学士・外科学士(Bachelor of Medicine and Bachelor of Surgery)の学位を取得している。

主な受賞歴・表彰：

- ・ケニア共和国大統領表彰 モラン・オブ・ザ・バーニング・スピア勲章(MBS)
- ・ケニア共和国大統領表彰 ケニア大戦士勲章(OGW)
- ・ケニア医師会(KMA) 殊勲賞
- ・ケニア家庭医協会(KAFP) 生涯功労賞
- ・コモンウェルス医師会 フェロー(FCMA)